



中嶋亮 准教授

専門：応用計量経済学

(インタビュアー：倉富・木屋)

『つながりと影響の経済学』

Q. 中嶋先生の専門とされている研究内容はなんですか？

研究内容言って学生くると思えないんだけど（笑）一応最近何をやってるか
いっておくと「つながりと影響の経済学」ですね。人と人が関わりあうと価値
が生まれるかなって思って、その生み出される価値っていうのをちゃんと測
りたいなあって思ってるわけ。

やっぱり経済学は社会科学だから、単体の人間の行動を見ている面白くな
くて。行為とか行動って波及するからさ。相互作用とかインタラクションが起
こることによって、個人と個人の足し算を超えるような何かが生まれているん
じゃないかなって思うわけ。それをデータから検証できたらいいかな、ってい
うのがあるかな。

昔は喫煙のピアエフェクトの研究をやってたけど、最近はイノベーションっ
ていうのをやってます。例えばシリコンバレーでなぜイノベーションが生まれ
るかっていうと、多様な人たちが相互作用することによって、新たな価値が生
み出されるんじゃないかなと思っているわけです。シリコンバレーだけじゃな
くてもいいんだけど、知識の波及効果って局所的なんだよね。そういうイノベ
ーションっていうのが、どんなインタラクションによって発生しているか、ど
うやって広がっていくかというのが最近の研究内容かな。一見経済学的ではな
いんだけど、経済学的に非常に重要な問題ですよ。少なくとも自分はそうおも
ってる。それがこの10年くらいの研究内容かなあ。

それを別に産業組織論・労働経済学・国際経済学とか、分けてやっていない。
好きなことをやっている、とそれだけの話。

『研究の楽しさって言うのをみんなに伝えられたらなって』

Q. 中嶋先生の教育理念を教えてください

まずね～、教育理念はない（笑）。基本的に教育者じゃないから。あんまり言うともた人來なくなっちゃうねえ（笑）。でも教育者やるためにこの大学きてるわけじゃなくて、俺、研究者としてこの大学きてるのね。この大学で自分の楽しいことやってて、大学は遊び場だから。好きなことやってるの。

そのなんか楽しさって言うのをみんなに伝えられたらいいかなって思ってます。もちろん知識も伝えるんだけど。楽しさの方が広く深く伝わるんだよね。君たちあと五年、いや三年もしたら、学校で教わったことなんてほとんど忘れてるから。でもね、大学でやった楽しいことってなんか覚えてるんだよね。まあそれが教育理念といえれば教育理念かな。

うちのゼミ生には基本的には俺の好きな範囲で研究をやらせているけど、うーんまあなんかよく分かんないけど傍からみていて楽しそうな集団だったらいいなと。教育する気はまったくないねえ。俺好きな事やってるだけだもん。だって教育したって忘れるし。でも、色んなやついるじゃん？おもしろいなあと。しかも、ゼミのみんなの発想結構面白いし、そこで研究みたいなこともやってもらおうと彼らの頭の刺激にもなるかなあと思ってるぐらい。別に教育してやろうとか思ってないし、何か学んで貰おうとは思わない。

『経済学って基本的に制約ないから。何やってもいい！』

Q. 中嶋先生の学生時代のお話を聞かせてください

学部時代は農学部だったんだけど、3年目までは勉強ゼロ（笑）。だってほとんど農民生活だからね。朝五時に起きて馬乗って、馬の手入れして、草刈りして、昼寝して夜は八時に寝てたから。3年間続けてきてこれはアカンなと思った。で4年生になって研究室にはいった。けどそこがまた理不尽な所で、そこで徒弟みたいなことやってたね。まあ楽しかったけど。

でも農学部って制約強いのが。農学部って農業以外のことやっちゃいけないの。でないとエライじいさんにおこらえる。俺は基本的に好きなことやりたいから。自分が学生時代の頃は農業経済学に興味があって日本の農業救ってやろうかみたいなアホなこと考えてたんだけど。やっぱりはいってみると面白くないなあと。やっぱり経済学って対象に制約ないから、経済学的な考え使えばなんでもいいんだと思ってね。それで、大学院は NY の経済学部に行った。別に NY

じゃなくてもよかったんだけどそこに出して受かったからそこ行っただけ。

基本的な勉強は殆ど自習かなあ。まあもちろんアメリカの大学院はいろんなこと学んでるけど、あれ、自習の延長だからね。俺、元々農学部だし、経済学をちゃんと教えてもらったことは殆どないねえ。まあ自習だけさ、さっきも言ったように友達と一緒に勉強したり、先生と色々話はしているんだけどね。でもその辺の和気藹々とした感じとか楽しさっていうのは自分に残ってる。結局やるのは自分だからさ。

『次は女子校みたいのつくろうかなって(笑)(笑)』

Q 中嶋ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

多様性。頭良い子がなぜ欲しいかという教えなくてすむから。今のうちのゼミにいるようなあまりお勉強のできそうなジェントルメンばかり入ってくると、全熟人の話聞いてないからこっちで教えないといけないんだけど(笑) まあ色んな人入ったらいいんでない？

あと、やっぱりゼミ生にどうしても入って欲しいとは思ってないです。入ってきてやる気のないやつはまったく意味わかんないよね。そういうヤツには辞めてもらおうと思っています。

今は男ばかりで多様性ないから次は女子プッシュで(笑) 男子ばっかもつまらんし、次は女子校みたいのつくろうかなって(笑) いや冗談だけさ。

『学生時代にやった無駄な事も、点と点を合わせると今のじぶんがある』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

みんな目的志向だよ。つまり例えば就職がいいからこのゼミ行くとか、公務員試験がいいからこのゼミ行くとか、女の子いっぱいいるからこのゼミいくからとか。まあそれはいいんだけど(笑) 目的志向自体は悪くないんだけど、皆がみんな目的志向なのかはどうかと思う。目的志向って長期的ではなく短期的な視野で物事考えてる気がするね。

で、自分のことを振り返ってみると学生時代にやった無駄な事も、点と点を合わせると今のじぶんがあるからさ。やっぱり目的志向だと結ぶ点が凄く少ないんだよね。

慶應義塾の学生さんは俺からすると単一的で多様性がない目的志向な集団にみえちゃなあ。まあ、それもいいんだけど。でもうちのゼミには無駄を真剣に

出来る人にきて欲しいね。無駄だから俺の講義とゼミ（笑）でもあとあと考えればちょっとは役に立つことはあると思う。でも即戦力にはならない。でも即戦力になるような知識なんて5年ももたない。うちの学生さんみんな都会人だからさ（笑）要領がいいんだろうね。でもこの先要領だけでは渡っていけないとおもうよ。賭けてもいい。運もあるしね。だから、もちょっとぐらい無駄なことも学んでほしいなあと。

【編集後記】

壁面が色鮮やかな洋書で埋め尽くされた日当りのいい開放的な研究室で行われたインタビューであったが、中嶋先生は大変お若く朗らかで、そのフランクでユーモア溢れる軽快な語り口に、引き込まれるようにして終わった30分間だった。このインタビューを通して中嶋先生の魅力に虜になってしまった一人として、この記事を読む二年生にも是非、中嶋ゼミの魅力を知ってもらいたいという思いで編集をした。

お忙しいなか本企画にご協力頂きました中嶋先生、ありがとうございました。

財務 倉富悠

【関連資料】

http://nakajima-econ.jimdo.com/app/download/9833218779/team_productivity.pdf.pdf